

Title	雜報
Author(s)	
Citation	地球 (1934), 21(1): 79-82
Issue Date	1934-01-01
URL	http://hdl.handle.net/2433/184239
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

新著紹介

○地震

和達清夫著 鐵塔書院發行 定價一圓二十錢

地震に關する通俗乃至半通俗の良書は、從來とても決して乏しくはなかつた。更に一書をそのリストに加へ得る事は地震國々民として特に地學愛好者にとつて嬉しい。我等はともすれば此の若い活潑な科學の現知識から取殘される。本書は地震學の現發達階梯を知るに最も適當な書で、深發地震に就いて特に眼新しい記事に富み、地質學徒等にも是非一讀をすゝめたく思ふ。四六版二五二頁他に索引附の手頃さ、穩利な流暢な能文が一息に通讀させて了ふ。(尾山生)

○地政治學入門

阿部重郎著 古今書院發行 定價一圓八十錢

本書はリヒャルト・ヘニヒ及レオ・ケールホルツ共著地政學入門の邦譯である。地政治といふ語よりも政治地理學といふ方がよいかもしれない。本書はこの學の入門として史的發展地政學の概念、國家の生活形態、自然の政治地理學的考察、國家概念、國際運動の六章がしるされてゐる。簡單明快といふ二語を以て本書を評すればあやまりがないと信じる。

(藤田)

○皇陵圖誌

大阪北區相生町四四 佐藤佐平發行 定價五十錢

大阪に於ける郷土地圖家である佐藤氏は、尊王思想の涵養に必要な皇陵巡拜の契に歴代皇陵の地圖を印刷し、加ふるに參拜道程・車馬の便否を詳解したこの圖誌を刊行した。多數の皇陵誌の中に地圖を主とした本書は蓋し雞群の一鶴といふべきであらう。普及をはかつて定價も廉い。皇陵の分布略圖の外に各陵附近圖約十四版、美はしい地圖集となつてゐる。

(藤田)

雜報

○日本綿布の埃及市場進出

埃及方面に輸入せらるゝ

本邦綿布は外國品種に比して價格低廉なるに加へて其使用價值比較的大で良く當國の民度と大衆の嗜好に適し、且絶へず製品の改良工夫が行はれる結果、漸次其眞價を認められ、今日では「安からう、悪からう」などとは云はれない。ことに埃及では永年の經濟不況で廉價品萬能時代になつたために邦品の進出、外國品の後退益々甚しくなつてきた。

其競争狀態を概言すれば邦品は輕目物たると重目物たるとを問はず、普通品として需要多き部分では生地綿布より晒・反染・絲染・捺染等いづれも目醒しき進出で、ことに其生地が内

地で自由に得られる一般東洋向又は内地向である場合には、其優越は絶對的であつて外品を驅逐してゐる。

普通品の中でも生地が埃及方面向の特殊品であり、其糸の番手・本數・反物の幅等に付て特別の製織を要し、内地でみられず、特別の器械を要するものは昨年度迄は外國品にまけてゐたが、其後當業者の努力で、或種類のものは目醒しく進出外品の位置に交代せんとしてゐる。

先般の綿布關稅の改正に於ても輕目物は舊稅を据置きにした所本邦品の輕目物は品質外國品に勝れてゐるので需要の大なるものは邦品であり、重目物は外國からの特殊品が多い。

これとても邦品の進出不可能ではない。英・伊・佛・白・瑞等の綿業は概して多數小規模の工場から出るために特殊の生地が多く小量の特定品に應じ得る點本邦に勝る。又マンチェスターの埃及棉を用ひた高級品は製品優良價格も低廉で、日本産の高級品では、目下近寄れない。それは永い間中級下級品が東洋向であつたから全力をこの方面に盡くした結果である。今各生地について概説すると、第一、生地棉布(粗布)は農民の日常服になるもので邦品が九割をしめる。第二、晒綿布は男子の上着其他用途が廣く一九三三年上半期には昨年同期の三億に達し英國について第二位となり、第三、絲染棉布では昨年では日・伊品で全額の九割四分を占めた。しかし本年上半期は伊太利の輸入の三位に對して第一位をしめたが、伊太利は歐洲では生産費の低い國であり、埃及にも近い、特殊織で

は日本以上であるから油斷は出来ない。第四、捺染綿布では昨年に至り始めて見るべき飛躍をしめたが英國に及ばず第二位である。しかし本年上半期には統計上英國の壘を驛するまでになつた。第五、反染棉布は昨年までは大部分英・伊の品であつて、本年も上半期に邦品は英國の二分一位しか進出が出来てゐない。

しかしこれを概観すると本邦綿布類の埃及進出は一九三三年に目醒しいものがあつた。英國のランカシャが日本を目の敵にするのも理由がある、邦品は一層努力して進まねばならぬ。

○日本ビールの進出

蘭領印度に於ける麥酒狀況につき

バタビアで發表された所によると同地方で日本産ビールは獨逸・和蘭・英國産麥酒を驅逐してゐる。日本のビールは一八九〇年以來急速なる進歩をしめし生産方法も亦新式で如何なる點に於ても獨逸・和蘭品に比して劣る所がない。又朝鮮・滿洲・上海等に支社を有し生産品の大部分を輸出してゐる。輸出先は獨り朝鮮・滿洲に止まらず、英領印度・太平洋諸島・南米沿岸諸國及蘭領印度に及び一九三一年蘭領印度に輸入されたビール千八十萬リットルの中獨逸品は七百四十萬リットル、和蘭品は二百萬リットル、日本品は五十萬リットルであつたが一九三二年のビール輸入額は總額八百萬リットルに減じた、内獨逸品は百五十萬リットルに減じ、又オランダは二百三

十萬リットルで前年同様であるのに日本品は俄然倍額の百十萬リットルに増進した。更に一九三三年上半期に於ける成績によれば日本産ビールの進出は更に顯著で獨逸の九十萬リットル及和蘭の八十萬リットルに比し日本は二百萬リットルとなつてゐる。

○獨逸の麥酒釀造業

一九三二年度に於ける獨逸のビールは前年に比して不振であつたが、しかし尙世界第一位の釀造量で三千三百五十八萬千「ヘクトリッター」に達し、前年に比し三百五十萬ヘクトリッターの減少に止まつた。獨逸につぐビール國は英國・米國・フランス・ベルギー及致須國である。米國に於ける禁酒法の廢止は高關稅に防げらるゝ困難あるも獨逸ビールの消費國として重要市場となつた。一九三三年上半期に十二萬二千ヘクトリッター、五百六十八萬馬克に上つた。但し前年同期よりは半減したのである。同時期にドイツが輸出した國は隣國オランダ一萬三千三百ヘクトリッター、同じくベルギー一萬四千四百ヘクトリッター、瑞西・英國・佛國これにつぐ順序であつた。

○華僑の現状

昭和八年八月の上海新聞に華僑聯合會の發起があつた。曰く華僑は世界的不景氣と南洋の護謨及錫業の湖落、メキシコの華僑排斥、南洋各地の華僑入國制限等により引揚歸國するものが漸増した。けれども猶總數一〇、二七八、〇〇〇人を數へ、在外商會の數百十九、學校五百八十三校に達してゐる。其主要分布國左の如し。

臺灣	三百萬人	米國	八萬人
シヤム	二百萬人	秘露	五萬人
マレー	百八十萬人	濠洲	五萬人
東印度	百二十萬人	日本	四萬人
香港	六十萬人	朝鮮	四萬人
佛領インド支那	四十二萬人	ホノルル	三萬人
ビルマ	三十萬人	ブラジル	二萬八千人
シベリヤ	二十五萬人	パナマ	二萬人
ボルネオ	十萬人	メキシコ	二萬人
澳門	八萬人	キューバ	二萬人

○ルキジアナ州天然瓦斯

米國ルキジアナ州で天然瓦斯に關する最古の記録は一八〇四年に現はれたが一八八八年シュレヴ・ポート市で一井を掘つて瓦斯を發見し多年燈用に供した。其後一九〇九年モンローに於て瓦斯發見あり一九一八年には、こゝでカーボン・ブラックを製造しはじめ、天然瓦斯工業が出發した。目下同州の瓦斯産地は何れも北部にありモンローは最古の産地で、其量最も多く面積二十二萬七千畝よりなり其蓄積量三兆七千六百億立方呎と稱せらる。さうして目下八百八十箇所の瓦斯井戸がある。四十五億立方呎を噴出してゐる。一九二六年に發見されたチツチランドは第二の産地で、貳百三十九の井戸があり三十三億四千萬立方呎の日産があるが、面積が狭いから見込が少い。次にシュガー・クリキ、及ロデッサの二地方がある。兩地共ガソリン含有量が多

いが工場が十分に出来てゐない、井戸の深きは四千呎から六千呎に達する。この州の瓦斯はカーボン・ブラック製造の外にパイプラインでテキサス、アラバマ及テンネッシーの諸州に輸送して工業及家庭用に使用されてゐる。

○英國の石炭液化工業

マクドナルド首相の聲明によ

れば、英國内に於て英國産石炭頁岩・泥炭又は是等より生産されたものより製造した炭化水素輕油(ペトロールの類)に對し一ガロンに付最低四斤の割合で保護を保證することになり一九三四年四月一日より十年間で、一九三五年四月一日から之を實施する。丁度其頃にはピリンガム工場の開始が出来るからで、一九三五年三月末日以後各財政年度に於て關稅が一ガロンに付四片以上で且當該年度に於て生産稅の課徴なきか、又は何れかの年度に於て關稅が生産を超過すること一ガロン四片以上に達すれば其場合には保證期間は斯かる超過額一片に對して三ヶ月の割合で減少されるといふ。

現在輸入ペトロールの關稅は上述の通り八片で之は國庫の收入を目的とした稅であるが、事實保護稅の實質を有してゐるが、今度帝國化學工業會社がピリンガムに石炭液化工場を二百五十萬磅を投ずることとなり、石炭液化をやることになった。この會社は過去數年間に亘り水素化合物により石炭液化の研究を繼續して來たもので、今日迄に百萬磅を費したが其コストは一ガロン七片乃至九片と云ふ高價につくので引き合はない。しかし今度工場が出来るために一年半の後には右の

保護政策でやつてゆけるものらしい。

工場資本金二百五十萬磅、最上ペトロール年産額一〇萬噸(三〇〇〇萬ガロン)石炭消費一〇〇〇噸一年間三五〇、〇〇〇噸、勞働者二、五五〇人といふ。

英國ではこの外に低温炭化法があつてL.T.C.會社でやつてゐる。海軍や空軍の協力で研究され、一九三〇年には五四〇噸、一九三三年には三、〇二五噸を納入する程の力があり、遠からず産出高は十倍するといはれる。いづれにしても國防上必要なペトロールを自給せんとするのであるから恐らく將來は見込が多い。しかし三千萬ガロンでは英國の總消費高約十一億ガロンの三%に達せず其石炭消費額は英國産炭額の〇・一五六%、即ち六百四十分の一と云ふ細かい數字であるからさう大きい事業ではない。更に今日最上級ペトロールは一ガロン約二片乃至四片半で賣買されてゐるのだから最低四片の關稅は從價二〇〇%に近い高率となるといふので、この政策に反對する聲がある。何れにしても、保護政策といふものは結局は容易ならぬ問題を惹き起すものと見られるのである。